○北海道植物新産地報告 (3) (伊藤浩司) Koji ITO: New localities of Hokkaido plants (3)* ** (Pl. IX)

8) **ミヤウチソウ** *Cardamine trifida* B.M. Jones 本誌第57巻第12号 (p. 376) でミヤウチソウの再発見を報じたが，その後，旭川市在住の斎藤恒弐氏は旭川近郊の東鷹栖町キトウシ山中腹斜面の広葉樹林内で本種の生育地を発見され，写真を同封されてきた。ここに同氏の許可をえてミヤウチソウの第二の産地を報告すると共に，我が国ではじめての原色写真を掲げる (Pl. IX)。

9) **キレハヤマブキショウマ** *Aruncus dioicus* var. *laciniatus* (Hara) Hara キレハヤマブキショウマは全体小形，小葉は広披針状卵形で葉縁の切れ込みがヤマブキショウマより一層深く，欠刻状鋸歯を呈している。しばしばミヤマヤマブキショウマと混同されるが，ミヤマヤマブキショウマは果時袋果が上向く。しかしキレハヤマブキショウマは常品のヤマブキショウマ同様下垂する。本種は原寛博士によって日高幌泉ルチシ

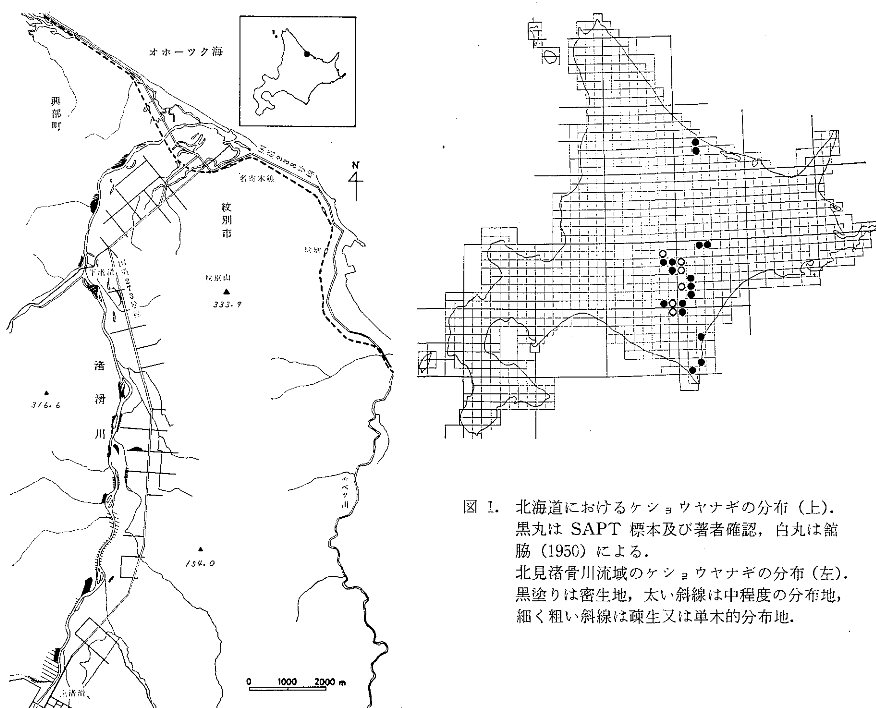


図 1. 北海道におけるケショウヤナギの分布 (上). 黒丸は SAPT 標本及び著者確認，白丸は舘脇 (1950) による.
北見渚骨川流域のケショウヤナギの分布 (左). 黒塗りは密生地，太い斜線は中程度の分布地，細く粗い斜線は疎生又は単木的分布地.

* 北海道大学農学部植物標本室業績. Contribution from SAPT (Fac. Agr. Hokkaido Univ.).
** 本誌 **59**: 189-190 (1984) から続く.

山をタイプロカリティとして発表された。SAPT には幌泉ルチシ山産の標本をはじめ，幌泉町禿山，日高山系のヤオロマップ山，オキシマップ山，ペテガリ岳から採集された標本が所蔵されている。昨年7月，十勝川支流札内川上流の岩壁上僅かな岩のすき間に根をおろして生育していたヤマブキショウマの一品は，まぎれもなくキレハヤマブキショウマである。本品の十勝側での記録はおそらくはじめてであろうが，日高山系南部という範囲からみると予想されてしかるべきであろう。

10) **ケショウヤナギ** *Chosenia arbutifolia* (Pall.) A. Skv. ケショウヤナギは北海道では太平洋に注ぐ十勝地方の諸河川，殊に十勝川支流にその分布が限られているとされていた（舘脇操：北海道におけるケショウヤナギの研究. 森林と技術 No. 2, 1-8, 1950)。1963年秋，当時北見営林局で国有林野の土壌調査に従事されていた故川代善一氏が，北大農学部にケショウヤナギらしい標本を持参され同定を依頼された。標本そのものはケショウヤナギであることには間違いなかったが，その由来についてよく分からず，舘脇先生も移入されたものではないかと言うことで，とうとう詳しい調査をしないでしまった。1985年秋，北紋地方の植生調査の折，問題の渚骨川流域を調べたところ，渚骨川河口付近から上渚骨にかけて，川岸や中州状のところにかなりの量の分布をみた。所によっては稚樹，所によっては高木，あるいは両者の混生，あるいは開発や河川改修のため単木状に残存したり，その分布・生育状態はさまざまであるが十勝地方の分布にひけをとらない量であった。たしかに舘脇先生は人為的導入を推測されたが，今日では最早自然林としてのケショウヤナギ林とみなしてよく，ここに記録しておく（図1）。

Explanation of Plate IX

Cardamine trifida B.M. Jones found in Mt. Kitoushi, Higashitakasu-machi, Hokkaido and cultivated in Asahikawa, Hokkaido. Photographed by Mr. Tsuneji Saito, May 9, 1984.

（北海道大学 大学院環境科学研究科）

○高等植物分布資料 (120) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (120)

○カツモウイノデ *Ctenitis subglandulosa* (Hance) Ching を日本海側で初めて，と本欄 (118) で報告したが，すでに枚村喜則氏が「植物地理・分類研究」32：18, 1984 で「島根半島に発見」と発表しておられるので，拙文の上記の一節を削除する。なお枚村氏の採集地と有田・錦織両氏のそれとは，遠くない別の場所のようである。ご指摘いただいた里見信生氏に感謝する。（東京都文京区[redacted] 伊藤 洋 Hirosi ITO)





K. ITO: Hokkaido plants (3)